

製品名: Bax(6F11)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM07478**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス、その他、カイコ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	20kDa

抗原情報

遺伝子名	BAX
別名	BAX
遺伝子 ID	581.0
SwissProt ID	Q07812
免疫原	AA 範囲 30-110 の Bax の合成ペプチド

背景

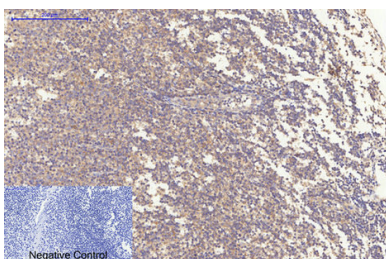
BAX (BCL2 関連 X、アポトーシス制御因子) によってコードされるタンパク質は、BCL2 タンパク質ファミリーに属します。BCL2 ファミリーのメンバーはヘテロ二量体またはホモ二量体を形成し、抗アポトーシスまたは促進アポトーシス制御因子として作用し、

様々な細胞活動に関与します。このタンパク質は BCL2 とヘテロ二量体を形成し、アポトーシス活性化因子として機能します。このタンパク質はミトコンドリア電位依存性アニオンチャネル (VDAC) と相互作用し、その開口を亢進させることが報告されており、膜電位の低下とシトクロム c の放出につながります。この遺伝子の発現は腫瘍抑制因子 P53 によって制御されており、P53 を介したアポトーシスに関与することが示されている。BAX については、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。疾患: BAX の欠陥は、T 細胞急性リンパ芽球性白血病、バーキットリンパ腫、形質細胞腫などの造血器悪性腫瘍の一部の細胞株で発見されています。ドメイン: BIK、BID、BAK、BAD、および BAX は、プロアポトーシス活性と、Bcl-2 ファミリーの抗アポトーシスメンバーとの相互作用のために、完全な BH3 モチーフを必要とします。機能: アポトーシス抑制因子 BCL2 またはそのアデノウイルス相同タンパク質 E1B 19k に結合して拮抗することで、プログラム細胞死を促進します。シトクロム c の放出、CASP3 の活性化、ひいてはアポトーシスを誘導する。類似性: Bcl-2 ファミリーに属する。細胞内局在: 細胞質内で 14-3-3 タンパク質と共局在する。ストレス条件下では、JNK リン酸化 14-3-3 タンパク質の放出を介してミトコンドリア膜に再分布する。サブユニット: ホモ二量体。BCL2、E1B 19K タンパク質、BCL2L1 アイソフォーム Bcl-X(L)、MCL1、および A1 とヘテロ二量体を形成する。SH3GLB1 および HN と相互作用する。SFN および YWHAZ と相互作用し、相互作用は細胞質で起こる。ストレス条件下では、JNK を介した SFN および YWHAZ のリン酸化により、BAX がミトコンドリアに放出される。アイソフォームシグマは、BCL2A1 および BCL2L1 アイソフォーム Bcl-X(L) と相互作用します。組織特異性: 幅広い組織で発現します。アイソフォームプサイはグリア腫瘍に認められます。アイソフォームアルファは脾臓、乳房、卵巣、精巣、結腸、脳に発現し、皮膚と肺にも低レベルで発現します。アイソフォームシグマは脾臓、乳房、卵巣、精巣、肺、結腸、脳に発現し、皮膚にも低レベルで発現します。アイソフォームアルファおよびアイソフォームシグマは、前骨髄球性白血病、組織球性リンパ腫、バーキットリンパ腫、T 細胞リンパ腫、リンパ芽球性白血病、乳癌、卵巣腺癌、前立腺癌、前立腺腺癌、肺癌、類表皮癌、小細胞肺癌、および結腸腺癌の細胞株で発現しています。

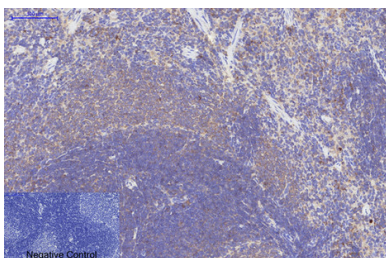
研究分野

細胞生物学

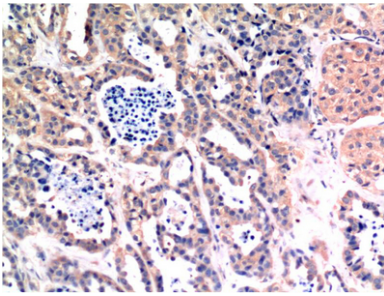
画像データ



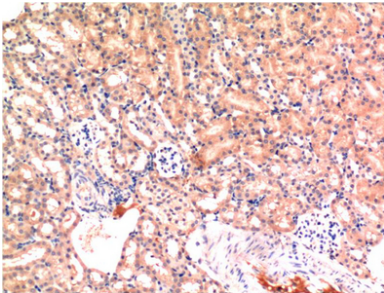
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. Bax マウスモノクローナル抗体 (6F11) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



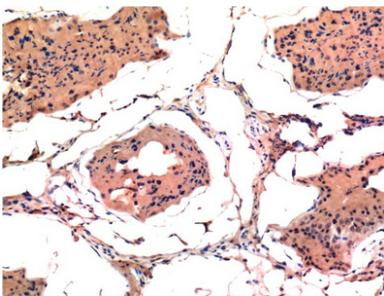
パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学染色。1. Bax マウスモノクローナル抗体 (6F11) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



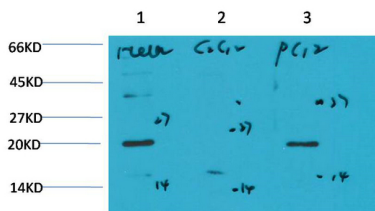
1:200 に希釈した Bax Mouse mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学分析。



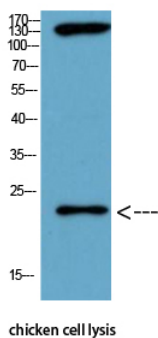
1:200 に希釈した Bax Mouse mAb を使用したパラフィン包埋マウス腎臓組織の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈した Bax Mouse mAb を使用した、パラフィン包埋ラット精巣組織の免疫組織化学分析。



1) Hela 細胞溶解物、2) C2C12 細胞溶解物、3) PC12 細胞溶解物の 1:1000 希釈の Bax マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



1:1000 に希釈した抗体を用いたニワトリ細胞溶解のウエスタンブロット分析